

国際レッサーパンダデーの取り組みとその評価

○永井 早紀

(横浜市立野毛山動物園)

野毛山動物園では、2022 年 9 月から 10 月にかけ、レッサーパンダの域内保全に貢献することを目的として、特別ガイドやパネル展、募金活動などの取り組みを行った。また、イベントの前後でアンケート調査を行うことで、これらの取り組みの評価を試みた。

事前調査はレッサーパンダデーの一週間前である 9 月 10 日に行った。事後調査は、レッサーパンダデー当日 9 月 17 日とその後の特別ガイドを行った日に、ガイドを聞いた人、パネル展を見た人を対象に行った。アンケートでは、「レッサーパンダが絶滅危惧種であることを知っているか」「レッサーパンダが絶滅しないためにあなたができることはあるか」などを訊ねた。事前調査の結果、絶滅危惧種であることを「知らない」と答えた人が 8 割を占め、レッサーパンダの実情は一般的にほとんど知られていないことが予想された。事後では「今日初めて知った」と答えた人が増え、取り組みの効果があったと判断できた。また、「絶滅から守るためにできること」に関しては、実際に自身で考えてもらうために自由記述とした。事前では、無回答や「わからない」が 23%あったのに対し、事後では無回答および「わからない」が 12%と減少した。記入された文章はユーザーローカル AI テキストマイニングを用いて分析を行い、事前事後の傾向を比較した。その結果、事前では「祈る」「保護する」「助ける」などの自身のアクションとして具体性に欠けるものが散見したのに対し、事後ではそれらの語句は減少し、「学ぶ」「知らせる」「寄付」「省エネ」「フードロス」など、自身にできることとして具体的な語句が増えた。また、実際に募金活動にも多くの来園者からの協力を得ることができ、来園者に保全活動に参加するきっかけになることができた。これにより、今回の取り組みは来園者のレッサーパンダに対する意識変化、できることへの気づきをもたらすことができたといえる。